にっぽんの温泉特集

今、話題の温泉地

日本各地に点在する温泉地は、長い年月をかけて人々の心と体を癒やしてきた。自然環境や泉質、歴史、地域文化といった多様な要素が織りなす温泉の魅力は、今もなお、進化を続けている。今回は、注目すべき話題の11温泉地のそれぞれの特色と旬の情報を紹介する。

◇温泉地一覧（都道府県順）

- 乳頭温泉郷（秋田県）
- 草津温泉（群馬県）
- 上諏訪温泉（長野県）
- 熱海温泉（静岡県）
- 稲取温泉（静岡県）
- 下呂温泉（岐阜県）
- 道後温泉（愛媛県）
- 由布院温泉（大分県）
- 別府八湯（大分県）
- 霧島温泉（鹿児島県）
- 指宿温泉（鹿児島県）

乳頭温泉郷（秋田県）

七つの宿、七つの湯。秘湯で温泉三昧

乳頭温泉郷（秋田県仙北市）は、十和田・八幡平国立公園の乳頭山麓に位置する。ブナの森に七つの宿が点在し、それぞれ独自の源泉からさまざまな泉質の湯が湧き出ている。2024年度の「にっぽんの温泉100選」では全国19位、東北エリアで2位にランキングした。「選んだ理由別」では「雰囲気」で15位、「泉質」で14位。あこがれの秘湯として支持されている。

「孫六温泉」が再開

乳頭温泉郷の7軒は、鶴の湯、妙乃湯、黒湯温泉、蟹場温泉、孫六温泉、大釜温泉、休暇村乳頭温泉郷。「七つの宿、七つの湯」として、7軒が一体となり、長年にわたって誘客促進や地域づくり、ブランド化に取り組んでいる。

危機も地域一体で乗り越えた。22年、孫六温泉が後継者の不在や人材不足のため、事業の継続を断念するという事態に直面した。これに対し他の宿は、「乳頭温泉郷は七湯で一つ」「孫六温泉の灯を絶やすな」との思いで一致し、共同で出資する形で、孫六温泉の経営を地域で受け継いだ。

湯めぐり帖

湯めぐり号

孫六温泉は、観光庁の補助事業「地域一体となった観光地・観光産業の再生・高付加価値化事業」も活用して改装。25年4月にリニューアルオープンした。「山の薬湯」といわれる秘湯の魅力はそのままに、「孫六温泉―六庵―」としてプライベート感のある宿に生まれ変わった。湯浴み着着用で混浴露天風呂に入れるほか、乳頭温泉郷で唯一のバレルサウナがある。

「湯めぐり帖」販売

七湯それぞれの魅力を堪能してもらうため、乳頭温泉郷の宿泊客に限定して「湯めぐり帖」（大人2500円、こども千円）を各施設のフロントで販売している。販売から1年間の有効期間内であれば、7軒それぞれに1回入浴できる。

加えて「湯めぐり帖」では、乳頭温泉郷内を循環しているシャトルバス「湯めぐり号」に乗車できる。また、日帰り入浴客にも販売している「湯めぐりマップ」（千円）は、入浴料は含まれていないが、販売日に限って「湯めぐり号」が1日乗り放題になる。

地域団体商標に登録

乳頭温泉郷の宿7軒は、23年7月に事業協同組合を設立した。従来の温泉組合という任意団体から、県知事の認可による「乳頭温泉郷協同組合」に態勢を一新し、ブランディング、旅行者の誘客・受け入れ、人材の確保などへの取り組みを強化している。

ブランディングの一環では、秋田県仙北市の「乳頭温泉郷」として、24年4月に地域団体商標への登録を実現した。乳頭温泉郷協同組合が発足直後の23年9月に出願し、特許庁から登録が認められた。地域ブランドの保護、競争力の強化、地域経済の活性化につなげていきたい考えだ。

草津温泉（群馬県）

継続的な町づくり　草津温泉に〝完成なし〟

草津温泉（群馬県草津町）は、自然湧出量で日本一を誇る温泉だ。毎分4千㍑の温泉が湧き、温泉街の中央に位置する「湯畑」は湯けむりが立ち上ぼる草津温泉のシンボルで、夜間のライトアップも美しい。旅行会社のスタッフなどが投票する「にっぽんの温泉100選」では22年連続で1位を獲得している。

最近では草津温泉観光協会が発信するショートドラマ動画が話題となり、若者からも注目されている。幅広い年代の旅行者や温泉愛好家の人気はもとより、旅行のプロも太鼓判を押す日本を代表する温泉地となっている。

草津温泉が幅広い支持を集める最大の要因は、草津町を中心に官民一体で行われてきた継続的な町づくりにあるといわれる。この10年ほどの町づくりの歩みを紹介してみよう。

2013年には、草津三湯の一つ、共同浴場の一御座之湯」を再建。高品質な木造建築を使用し、湯治文化を現代に再現した。14年には、「湯路広場」を整備。広場の外周を木造建築物で囲み、浴衣姿でそぞろ歩く昭和レトロな風情を再構築した。15年には、「熱乃湯」をリニューアル。古くからの共同浴場が大正ロマン風のたたずまいとなり、湯もみと踊りのショーが見られる施設に生まれ変わった。

18年には、園内のいたる所から温泉が湧きだす「西の河原公園」の再生事業が完了。露天風呂、灯路などを整備し、季節を問わず散策が楽しめるようになった。21年には「裏草津地蔵」をオープン。湯畑エリアが表草津であれば、地蔵エリアが裏草津。裏草津地蔵エリアには、「地蔵カフェ月の貌（かお）」をはじめ、アート作品の製作が体験できる「百年石別邸」などの新スポットが誕生した。

23年には、温泉街入り口の慢性的な渋滞を解消する道路の立体交差化と、玄関口としての景観整備、この両方を実現させた「温泉門」が完成した。温泉門の外壁には木彫のデザインを施し、広場に足湯も整備、夜間のライティングも実施している。

草津温泉のもう一つの顔である山岳リゾート、スノーリゾートとしての整備も進めている。23年には草津温泉スキー場に、床の一部を透明化した通年営業の「パルスゴンドラ天狗」が稼働開始。また、山頂部には本格的なすしなどが堪能できる展望レストラン「クリスタル天（そら）」がオープンした。

草津町の年間の入込客数の目標は400万人。町づくりに終わりはない。現在も、修景事業や利便性向上のための整備事業などが進行中。草津温泉スキー場では、天狗山レストハウスのリニューアル事業が進んでおり、この冬には完成する予定となっている。

草津温泉のシンボル「湯畑」

この冬にリニューアルオープンする天狗山レストハウスの完成イメージ

上諏訪温泉（長野県）

「諏訪湖のサマー花火」「霧ヶ峰高原」を満喫

長野県の中央に位置する諏訪市は精密機械メーカーの集積地として知られる一方、信州最大の湖である諏訪湖に代表されるリゾート地としての顔も併せ持つ。その代表格は温泉で、諏訪湖畔にある「上諏訪温泉」は、豊富な湯量を誇る県を代表する温泉地となっている。

市内には数カ所の源泉があり、泉質は肌にやさしい弱アルカリ性。観光経済新聞社が主催する「にっぽんの温泉100選」の2024年の総合順位は第43位。数多くの温泉地を抱える長野県の中でも第4位につけている。

夏の上諏訪温泉といえば花火を思い浮かべる人も多いだろう。例年夏休み期間の約1カ月間開催される「諏訪湖サマーナイト花火」。今年は7月25日～8月24日（8月15日を除く）に開かれる。期間中は毎晩、午後8時30分から10分間、花火が上がる。

コロナの影響で19年を最後に中止、見送りとなっていた全国新作花火競技大会は、6年ぶりに復活開催される。大会名を「全国新作花火チャレンジカップ2025」に変更。従来とは異なり、予選4回、決勝1回の分散方式で開催する。開催日は予選が9月の毎週土曜日、決勝が10月の最終日曜日となる。

もう1カ所、諏訪湖と並び訪問したい景勝地として霧ヶ峰高原がある。1973年に県立の自然保護センター「長野県霧ヶ峰自然保護センター」がオープンし、館内では、そこでしか見られない動植物や地質、歴史などを実物や写真パネルで紹介。22年に全館リニューアルし、眺望が抜群のテラスを設けた。また、映像による紹介を新しくしたほか、展示もバージョンアップし、霧ヶ峰の魅力がさらに体感できる施設に生まれ変わった。

諏訪でこの数年、ブームとなっているのがサイクリングだ。昨年4月、諏訪湖を1周（16キロメートル）できるサイクリングロードが全線開通。市内のレンタサイクル事業者では自転車や電動Eバイクの貸し出しも行っており、「サイクリングロードは平坦で走りやすく、Eバイクを使えば90分で走破できる」と諏訪観光協会。

諏訪は日本酒の町でもあり、市の甲州街道沿いには、「舞姫」「麗人」「本金」「横笛」「真澄」の五つの酒蔵がある。霧ヶ峰の伏流水で醸造した日本酒を楽しめるイベント「上諏訪街道まちあるき呑みあるき」は10月4日に開催される。

最新のトピックスは、「待望の諏訪湖スマートインターチェンジの開通」（同協会）。7月27日15時に、諏訪湖を一望できる中央自動車道の諏訪湖サービスエリアに設置される。諏訪湖畔に直結し、上諏訪温泉まで10分強。諏訪市内の観光地へのアクセスが容易になり、利便性が大幅に向上する。

露天風呂から眺める花火は圧巻

熱海温泉（静岡県）

七湯巡りと花火に癒やされて　観光の魅力凝縮

食べて、見て、つかって―。食と自然、文化、温泉など観光の醍醐味が凝縮された静岡県・熱海温泉。都心から最速で約30分という好立地にありながら、その歴史は1200年以上に及ぶ。奈良時代、僧・万巻上人が海中の温泉脈を「大湯間歇泉」に移し、誰もが入浴できるようにしたことから始まり、以来、徳川家康など多くの武家からも愛され続けてきた名湯だ。

温泉は毎分約1万6600㍑と豊富な湧出量を誇り、泉質は約7割を占める塩化物泉と、硫酸塩泉、単純温泉（アルカリ性含む）の3種類。肌を引き締め、痩身効果が期待できるほか、市内の源泉のほとんどが弱アルカリ性のためやわらかな湯あたりで、美人の湯ともいわれている。

熱海温泉の歴史を語るうえで欠かせないのが、市内に点在する七つの源泉群「熱海七湯」。かつては地上一面に自噴していたと伝えられているが、自然災害の影響で湧出場所は限られ、現在は人工的に噴出させて当時の様子を再現している。市の指定文化財「大湯間歇泉」や、温泉卵を作ることができる「小沢の湯（平左衛門の湯）」など、立ち上る湯けむりが風情を感じさせ、押印帳を片手にゆっくりと巡ることができる。

街歩きの合間には、地元人から団体まで幅広く対応する多彩な温泉宿で、癒やしのひとときを過ごしてみては。

■熱海観光局TEL0557（29）6434。

花火大会のフィナーレを飾る「大空中ナイアガラ」

熱海七湯の一つ「大湯間歇泉」

スイーツも味わいたい。熱海駅前にある各商店街では、レトロな牛乳びんが目をひく「熱海プリン」をはじめ、老舗和菓子屋・又一庵が手掛ける「熱海ばたーあん」、古屋旅館が和栗専門店と共同開発した「生糸モンブラン」など、熱海でしか味わえない品々が並ぶ。これらを目当てに訪れる観光客もいるほどで、温泉と並ぶ熱海観光の魅力の一つとなっている。

熱海湾での恒例行事「熱海上花火大会」は、夏のみならず四季を通じて開催（今年は17回）。三方を山に囲まれたすり鉢状の地形のため、海上で打ち上げられた花火の音が反響し、巨大なコンサートホールのような音響効果を生む。夜空を彩る大輪の花火、水面に映る光、そしてフィナーレを飾る「大空中ナイアガラ」は、まばたきを忘れるほど圧巻の光景だ。観賞後は個

1200年以上の歴史を誇る温泉地、熱海市

稲取温泉（静岡県）

海辺町で絶景の温泉と伝統文化に触れる

静岡県東伊豆町にある稲取温泉は海岸線に小さく突き出た岬に位置し、伊豆大島と太平洋を望むロケーションで、1956年に温泉が湧出した比較的新しい温泉地だ。

絶景の露天風呂と、稲取や近隣の漁港で水揚げされる新鮮な海の幸を提供する旅館が増え、少しずつ評価され温泉地として発展してきた。ほかにも「ひなのつるし飾りまつり」等の歴史のある伝統行事を目当てに訪れる常連客も多いという。

7月19日には「磯SeaGarden IKEJIRI」が待望の海開きを迎える。磯SeaGardenは温泉街に近い池尻海水浴場と海浜プールの総称。池のような形に、岩に囲まれた海水浴場のため波の侵入が少なく、小さな子供も安全に遊べることから リピーターが増えている。スノーケリングで色とりどりの魚を観察したり、岩場のカニやエビを捕ったりなど、砂浜ではできない体験が売りとなっている。潮位が深かったり、海が苦手な子は、隣接する海浜プールでも楽しめる。同エリアで毎年開催されている「さざえのつかみ捕り大会」も大人気だ。今年は7月28～30日に開かれる。

また、8月4日から6日の夜には手作りゲームや、かき氷などの夜店が出る子供向けの「ちびっこ縁日」が開催され、毎年多くのファミリーが参加している。

夏の恒例行事、花火大会は7月21日から5日間、8月25日から5日間と合計10日間の開催。打ち上げ場所は旅館の稲取銀水荘前と池尻海岸サンライズテラス、稲取漁港の3カ所。それぞれ午後8時30分から10分間、約300発を打ち上げる。

秋に訪れたい観光名所として、「未来に残したい草原の里100選」にも選ばれた稲取細野高原がある。伊豆半島の最高峰とされる天城連山と、広大な相模湾に浮かぶ伊豆諸島を望む東伊豆随一のパノラマスポットだ。群生するすすきが10月から穂を出し東京ドーム26個分に相当する125㌶もの草原が、黄金色に色づき幻想的な景色を作り出す。今年の「秋のすすき鑑賞会」は、10月31日から11月30日までの約1カ月間開催される。

ひなのつるし飾りまつりの地である稲取の早春のイベントといえば、例年1月20日から3月末まで開催される「ひなのつるし飾りまつり」だ。「文化公園雛の館」をメインに4会場で開催される。中でも最大の注目が素盞嗚（すさのお）神社雛段飾り。素盞嗚神社ではひな人形の展示段数日本一とされる118段にひな人形とつるし飾りを展示している。厳かな神社の雰囲気と色とりどりの華やかなひな飾りが織りなす光景は圧巻で、訪れる観光客を魅了している。

ひなのつるし飾り

伊豆大島と太平洋を望む抜群のロケーション